



大阪府では、「大阪の元気!ものづくり企業」冊子掲載企業(匠企業)として位置付けている。



大阪府経営革新計画承認企業  
大阪府では、中小企業者の経営革新を支援するため、中小企業等経営強化法に基づく経営革新計画の審査・承認を行っている。

## 4 カーテンレールづくりの技術が街を、世界を変えていく。

カーテンレールと聞けば、誰も同じものを想像するだろう。しかし岡田裝飾金物株式会社の事例を見れば、そんな既成概念も吹き飛ばす。同社のカーテンレールは工場、店舗などで使われるタイプがメイン。代表的なところでは大型工場・倉庫の大開口部にビニールシートを吊るして雨・風を防ぐ大型カーテンレールがある。シートの端に縦のポールをつけることでピタッと閉まり、冷暖房効率もアップさせる。東日本大震災後の省エネやエコへの関心も追い風となり、この製品から同社の躍進ははじまる。

1921年創業の同社はその名が示す通り、裝飾金物である家具の金物からスタート。ホテルの裝飾品などを扱っていた関係で内装や一点物の裝飾金物がメインであったが、先代が既成品製造へと舵を切る。時おりしも70年代ははじめの高度成長期、住宅も増え生活様式も和から洋に変化した頃である。そして次代を見据えて産業用にも進出。先の大型機能カーテンレール「OSエコレール」を製造してわかったのは、まだまだ可能性がある市場だということ。4代目となる岡田和宏代表取締役曰く、「吊って動かすことに徹している」。ものをつくるだけでなく、用途提案できる強みもある。「カーテンレールを2本這わせれば、開閉式の屋根ができ、砂場やプールの上に設置することで、ずいぶん涼しくなると」。事例を見れば見るほど、そんな使い方があるのかと驚かされる。商品開発のアイデアはまず顧客の要望をカタチにすること。要望を丁寧にすくい取れば、いくらでも商品はできるし、その使い方も



屋内・屋外の空間間仕切、雨風除け、日除けなどで活躍するオリジナルのOSエコレール。工場、物流センター、公共施設、店舗など、あらゆる場所で活用されている

一緒に考えることができる。また営業と製造現場が一体になっている点も大きい。営業が持ち帰った案件を、すぐに工場へ相談に行くことができるためだ。「もともと一点物をつくっていたから技術力がある。だから別注対応や試作、新商品もスピーディにつくれるんです」。新しいものをつくることで現場もワクワクする、すべてが好循環で回ります。「これからも世の中に必要とされるものをつくっていく」。その言葉通り、想像もつかないところで、同社のカーテンレールに出会うことだろう。 [続々▶▶](#)

岡田裝飾金物株式会社

<https://www.os-rail.co.jp/>  
八尾市南亀井町 1-1-40 TEL 072-995-8100



昨年JR大阪駅の「時空の広場」に展示された、建築系学生のインスタレーション作品にもレールを提供。風が吹くたび、ひらりと揺らぐ空中のオブジェ



壁に断熱材を入れてOSエコレールで仕切り、内部にエアコンをきかせると倉庫が簡易冷蔵庫に



電動ウインチなど100kgまでの荷重に耐える新製品の「キャリアレール」。分岐ユニットで走行ルートの切り替えも可能



幼稚園のプールの日除けや屋外施設の屋根として使えるパーゴラも、早くから手がける

## 5 設備投資と内製化を進め、提案型企業へと成長。

多くの人の目に触れるが、そこには製造する会社の社名が入らない。それがパッケージ。メーカーの黒子や縁の下の力持ちのような存在。時代のニーズに合わせた変化も求められ、「一時期、企業がパッケージにかかるコストを削減した時期もありましたが、現在では売り場で映えるパッケージが求められており、同時に売り場のディスプレイとしてもパッケージのデザイン性が強く求められています」。そう語るのは異製函株式会社の異 教代表取締役。祖父が「貼箱」と呼ばれる手作業で貼るパッケージづくりをはじめ、先代がトムソン機を導入して製造ラインを拡大。3代目となる異氏によって、新たな改革が進行中だ。

「企画力がなければ、価格競争に巻き込まれる」と、入社後から企画会社とコラボ的に仕事を進めていた異氏。そんな矢先、大手の取引先を失う。これをきっかけに大量生産型から小ロット多品種へと方向転換を図る。また先の企画会社がプロッター部門を切り離すことになり、オペレーターと一緒に引き受けた。その後、社内にデザイン事業部を設けデザイナーも採用。「ものづくり補助金でレーザー機を、2015年にはインクジェット印刷機を導入してアクリルへの印刷もできるようになりました」。オンデマンド印刷機も3台所有し、展示会のポスター、パンフレットなどのDTP印刷から、ノベルティなどの販促商品の提案、製造、加工まで一貫生産できる体制を整えた。



パッケージをつくるノウハウで設計開発した、ハンドル式BOXガシャ。テープ・のり・カッターなどを使うことなく簡単に組立てが可能で、補充も簡単。商標・実用新案取得

そこから一気に仕事の幅が広がり、パッケージ以外の顧客も着実に増えている。最近ではアニメ業界にも参入。こちらでは新規提案から商品開発まで行っている。そうしてできたアニメグッズを入れるものを、イベント用につくって欲しいという依頼から生まれたのが、初のオリジナル商品の「BOXガシャ」だ。もとはアパレル企業デザイナーをしていた異氏、企画やデザインする人の気持ちがわかるから、社員には「面白そうなら、とりあえずやってみたら」と言う。設備、企画提案力、社員のやる気が揃った今、「いつかは自社商品でヒットができれば」という夢が叶う日も近い。 [続々▶▶](#)

異製函株式会社

<http://www.tatsumi-hako.co.jp/>  
藤井寺市北條町 10-12 TEL 072-939-0840



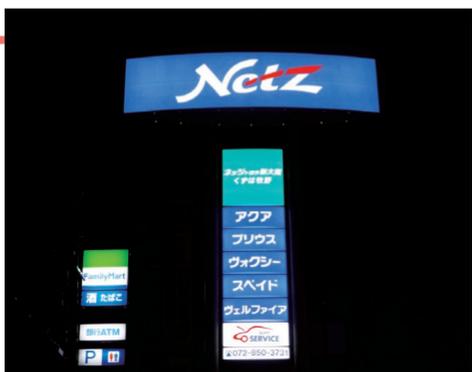
アクリル製のキャラクタープレート。自由な形にカット可能なので表現の幅が広がる。オリジナルグッズなどにも最適



今やパッケージや紙製品だけでなく、缶バッチからタンブラー、ルーペ、iPhone ケースまで幅広く対応する企業へと進化した

## 6 ムラのない光を実現したLED照明でさらなるビジネスの拡大を目指す。

LED照明の普及が進んだこの10年。成熟期を迎えつつあるこの市場を、今にぎわせている製品がある。その名も「輝烈(キテツ)」。販売実績もまもなく100万球に届くという大ヒット商品だ。ヨーホー電子株式会社がつくりあげたこの薄型面発光LEDは、ロードサイドの看板、店舗、地下鉄の行き先表示板などに広く採用されている。自社でレンズ設計をおこない、面照度を均一にするレンズモジュールを開発。これにより内照式看板や間接照明でムラのない面発光が可能に。また通常LED直上から発光面までの距離が100mmのところ、75mmという他社より近い距離で均一発光する、照明の可能性を広げる製品だ。同社は1988年の創業。本業はプリント基板の設計・実装・組立、LED製品の開発・製造・販売。2000年頃までは実装がメインで業務の9割近くが大手企業向けだったが、生産の海外シフトなどの影響を受けた。そこで多品種少量生産に切り替えて、産業機器などの需要を開拓。多岐にわたる業種の仕事をこなすなかで、蓄積されたノウハウを結集し、光源の回路設計からすべて自社で手がけた「輝烈」を開発する。製品が認知されるまでは時間がかかったが、国産の信頼性と自在な設置方法が知れ渡り、最近では名指しで問い合わせがある。それによって提案も通りやすくなり、



トヨタ自動車のディーラー「Netz」の看板をはじめ多くの店舗や交通標識などに採用。製品性能に加え、施工のしやすさが評価され実績は着実に増えている

本業の基板でも広告業界や建築関係から声がかかるなど、相乗効果が生まれている。プリント基板の実装も、内蔵される製品の小型化と高性能化にともない高密度化が進むが、そういった最先端の製品に小ロットで対応できることでさまざまな需要に応えていきたい、と辻 吉典代表取締役は語る。「1個からの注文でも対応できる設備と、かつての量産に対応したラインを同時に走らせることができるのは基板の世界では珍しい。どんな変化にも対応できる体制を整えています」。そんな辻氏が考える次の一手とは。「製品のブランド力を使って、会社の名前を売っていきたく。当社で何ができるかを知らしめて、本業の実装・組立関係と結びつけられたい。企業としてさらに前進できるはず」 [続々▶▶](#)



「輝烈(キテツ)」は自由な配光制御ができる薄型拡散レンズを採用、明るく均一な光を放ち演色も自在。42×27mmのコンパクトサイズで消費電力はわずか2.1W



ミリ単位の作業も多いため、検査工程も重要になる。「チャレンジ0ppm」(初期不良率ゼロ)をスローガンに、独自の管理体制で品質管理の徹底を図っている

ヨーホー電子株式会社

<http://www.yoho-denshi.com/>  
門真市四宮 6-6-46 TEL 072-881-6355